

日本をおいしくする

SHOWA

第10期 事業報告書

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで



昭和産業株式会社

食のベストパートナー
を目指して

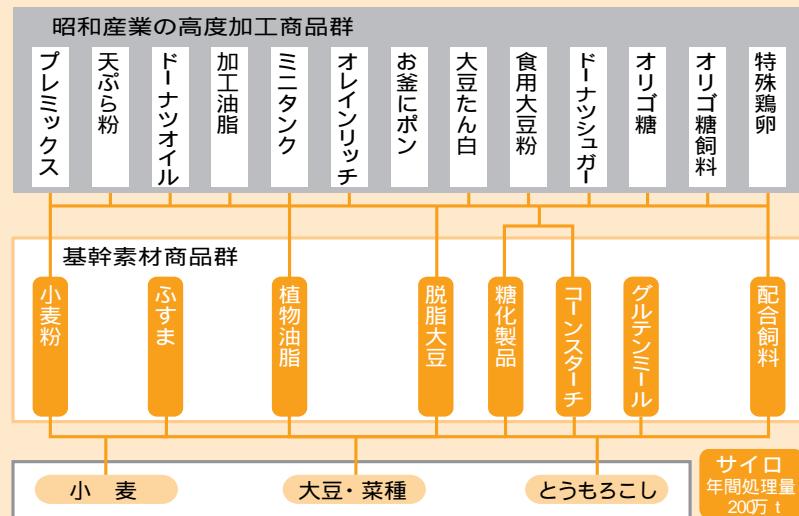
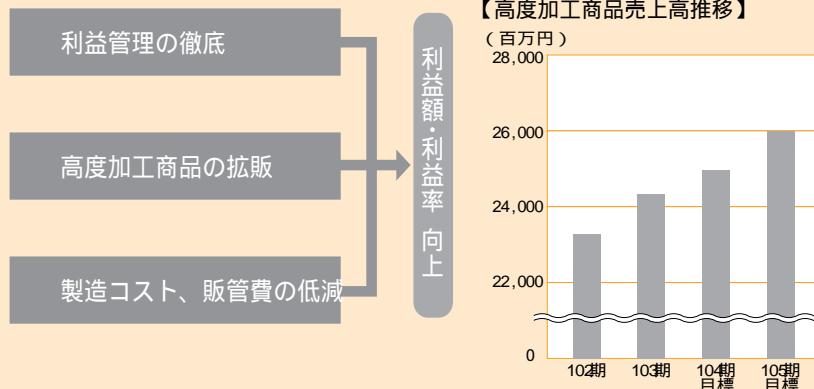
SHOWA-ism (イズム) 計画の進捗状況

当社は、当期(103期)より中期計画「SHOWA-ism(イズム)計画」(概要は右記の通り)の達成に取り組んでまいりました。この度、103期末現在の進捗状況がまとまりましたので株主の皆様にご報告いたします。

目次

SHOWA-ism(イズム)計画の進捗状況	1
株主の皆様へ	3
グループの営業概況	4
連結貸借対照表	5
連結損益計算書	6
業績の推移(連結)	6
貸借対照表(単体)	7
損益計算書(単体)	7
業績の推移(単体)	8
株式の概況	8
役員	9
グループの概要	9
会社の概要	10
株主メモ	10

I. 利益率向上



期 間

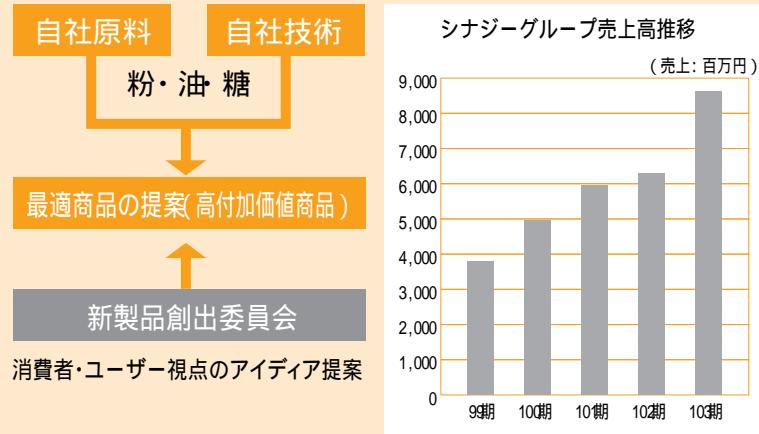
103期～105期(2003年4月～2006年3月)

基本戦略

- I. 利益率向上
 II. シナジー効果(「粉+油」等の相乗効果)の発揮
 III. コスト競争力の強化(経費率低減)
 IV. 責任ある社会の一員としての行動 環境変化への対応

II. シナジー効果(「粉+油」等の相乗効果)の発揮

昭和産業グループの強味を最大限発揮するため、専門メーカーにはない多岐にわたる商材を扱うメリットを活かし、これらの組み合わせによって生み出される加工度の高い新たな付加価値商品を継続的に提供することを目指しています。



III. コスト競争力の強化(経費率低減)

営業コスト・管理コスト低減

販管費対前期(102期)比で5億円削減

ローコストオペレーション

工場コスト対前期比で5億円削減

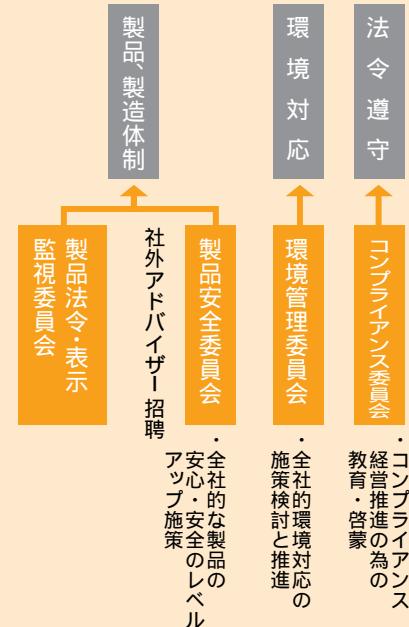
財務体質の一層の強化

有利子負債の削減 103期末 389億円(対前期比 78億円減)

IV. 責任ある社会の一員としての行動 環境変化への対応

「収益性の向上」を追い続けるあまり様々なルールを守らなければ、企業の存続自体が危うくなってしまいます。そのようなことがないよう、「収益性の向上」と「透明性の向上」とが牽制し合う、バランスの取れた企業活動を行う事を意識しております。

【安心・安全・透明性の向上】



株主の皆様へ

株主の皆様には、平素は格別のご支援をたまり、厚くお礼申し上げます。ここに、第10期の事業概況をご報告申し上げます。

当期の我が国経済は、企業収益が改善し、株式相場も上昇に転じるなど緩やかに回復しているものの、厳しい雇用状況から個人消費が低迷するなど、依然として楽観できない状況にあります。

食品業界におきましても、米国におけるBSEや国内における鳥インフルエンザの発生など食の安心・安全を脅かす問題が続き、また穀物相場が高値で推移したことにより、経営環境は大変厳しいものとなりました。

このような状況のなかで、当グループは中期経営計画「SHOWA - i s m(イズム)計画」に基づき、高付加価値製品の拡売や製品の販売価格の改定など収益性の向上を図るとともに、製品の安心・安全の確保を徹底し、経営の透明性の向上に努めてまいりました。

これらの結果、当期における連結業績は1,812億6百万円と、前期より17億4百万円(1.0%)の減少となりましたが、経常利益は44億5百万円と前期より24億3百万円(120.9%)の増益となりました。また、当期純利益につきましては、18億8百万円となりました。

今後の我が国経済は、民間設備投資の増加や輸出関連企業を中心とした企業収益の改善が見込まれるものの、為替相場における円高の進行や長期にわたる個人

消費の低迷など懸念材料も多く、景気回復の足取りはなお重いものと予想されます。

当グループといたしましては、「新製品創出委員会」や「製品法令・表示監視委員会」の発足などによる社内体制の確立に注力し、今後も企業としての収益性の向上、製品の安心・安全の向上、経営の透明性の向上に努め、「お客様にとっての“ベストパートナー”となる」よう「SHOWA - i s m(イズム)計画」の達成に向けて邁進する所存でございます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻をたまりますようお願い申し上げます。

平成16年6月



代表取締役社長

福井 茂雄

グループの営業概況

食品事業

食品事業は、穀物相場が高値で推移し原料コスト面で増加傾向にある厳しい環境にあったものの、高付加価値商品への販売シフトや収益性を重視した販売活動を展開したことや、販売価格で食用油を中心に価格は正に努めた結果、売上高は1,333億17百万円と、前期に比べ13億2百万円(1.2%)の増収となりました。

(部門別概況)

① 製粉

小麦粉の販売数量は、市場競争が厳しさを増す状況のなかで提案型営業活動を展開し、前期を上回りました。プレミックス類は、新製品の投入やペーカリーセミナーの開催などの販売促進活動を進め、ドーナツ用および総菜用を中心に販売数量を伸ばすことができました。ふすまなどの販売数量も前期を上回りました。また、前期より小麦粉周辺食材として販売を開始しました加工油脂の販売数量も前期を上回りました。

これらの結果、売上高は376億70百万円と前期を上回りました。

② 油脂

食用油および脱脂大豆の販売数量は、油脂原料相場の高騰による採算悪化が続くなか、価格は正による収益の回復を優先したため前期を下回りましたが、プレミアムオイルおよびミニタンク油の販売数量は、積極的な販売活動により前期を上回りました。業務用食材の販売数量は、収益性の高い天ぷら粉の新規販路開拓に注力しましたが、パスタ類が減少し、全体としては前期を下回りました。

これらの結果、売上高は392億49百万円と前期を上回りました。

③ ぶどう糖

糖化製品は、昨年の冷夏の影響がありましたものの積極的な営業活動を展開した結果、販売数量は前期を上回りました。乾燥でん粉の販売数量は、ビール向けが増加したことなどから、前期を上回りました。主原料であるとうもろこしの相場は、船運賃の上昇による調達コスト増に伴い強含みの展開が続いたため、製品価格の改定に努めました。

これらの結果、売上高は236億43百万円と前期を上回りました。

④ 家庭用食品

家庭用食用油の販売数量は、健康油「オレインリッチ」の拡販を進めましたが、穀物相場の高騰を受け販売価格は正に努めたこともあり、大容量のサラダ油類が不調に終わった結果、前期を下回りました。家庭用小麦粉二次加工品の販売数量は、市場競争の激化が続くなか、天ぷら粉、ホットケーキミックス等を積極的に拡販しましたが前期を下回りました。ギフトセットの販売数量は、ギフト市場全体の縮小の影響を受け、前期を下回りました。健康食品は、「お釜にボン」を中心に拡販に取り組み、前期を上回りました。家庭用米の販売数量は、採算性重視の販売を行ったため前期を下

回りました。

これらの結果、売上高は299億16百万円と前期を下回りました。

⑤ 冷凍食品

冷凍食品部門は、不況により外食産業が伸び悩む厳しい状況のなかで積極的な営業活動を展開した結果、販売数量が前期を上回り、売上高は32億37百万円と前期を若干上回りました。

飼料事業

配合飼料の販売数量は、収益性を重視した販売活動を展開したため、前期を下回りました。販売価格は、穀物相場が堅調に推移したため前期を上回りました。鶏卵の販売数量は、業務用を中心に伸長した結果、前期を上回りました。販売価格については鶏卵相場の低迷により前期を下回りました。また、収益性の高い温泉卵の新規販路拡大に取り組み、販売数量を伸ばすことができました。

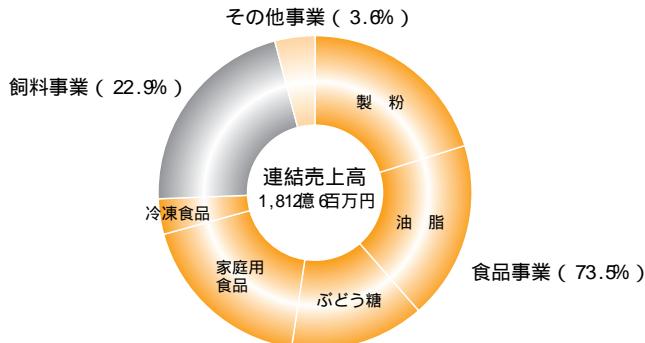
これらの結果、売上高は415億19百万円と前期に比べ28億60百万円(6.9%)の減収となりました。

その他事業

その他事業のうち、倉庫部門は輸入穀物の獲得競争が厳しい状況のなかで、積極的な営業活動を行いました。荷役量、保管積数は前期を下回り、売上高は前期を下回りました。不動産部門は、賃料引下げ要求などもあるも積極的な営業活動を行った結果、売上高は前期を若干上回りました。

これらの結果、その他事業の売上高は68億69百万円と前期に比べ4億4百万円(8.4%)の減収となりました。

【部門別売上高比率】



連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当 期 (平成 16年 3月 31日)	前 期 (平成 15年 3月 31日)
【 資 産 の 部 】		145,048	145,496
流 動 資 産		50,546	50,389
現金・預金		5,062	3,868
受取手形・売掛金		25,797	25,908
たな卸資産		17,213	17,283
繰延税金資産		495	1,591
その他		2,297	1,982
貸倒引当金		319	245
固 定 資 産		94,501	95,106
有 形 固 定 資 産		77,613	81,300
建物・構築物		37,332	39,024
機械装置・運搬具		18,506	20,257
土地		20,554	20,729
建設仮勘定		105	94
その他		1,115	1,195
無 形 固 定 資 産		457	454
投資その他の資産		16,430	13,351
投資有価証券		13,245	9,403
長期貸付金		2,466	2,839
固定化営業債権		456	442
その他		1,768	2,150
貸倒引当金		1,505	1,484
資 産 合 計		145,048	145,496

(単位: 百万円)

科 目	期 別	当 期 (平成 16年 3月 31日)	前 期 (平成 15年 3月 31日)
【 負 債 の 部 】		98,590	104,064
流 動 負 債		63,967	68,866
支払手形・買掛金		15,983	15,227
短期借入金		34,558	34,261
コマーシャルペーパー		2,500	9,200
未払法人税等		939	171
未払費用		2,641	2,651
預り金		2,833	2,575
賞与引当金		998	1,021
設備関係支払手形		1,149	1,414
その他		2,363	2,343
固 定 負 債		34,622	35,197
長期借入金		21,045	21,813
繰延税金負債		4,589	3,119
退職給付引当金		3,779	4,443
役員退職慰労引当金		767	917
連結調整勘定		52	65
その他		4,388	4,836
少 数 株 主 持 分		1,329	1,312
【 資 本 の 部 】		45,128	40,119
資 本 金		12,778	12,778
資 本 剰 余 金		9,007	8,970
利 益 剰 余 金		20,587	19,231
その他有価証券評価差額金		2,764	335
自 己 株 式		8	1,195
負債、少数株主持分 及び資本合計		145,048	145,496

(百万円未満は切捨表示しております。)

連結損益計算書

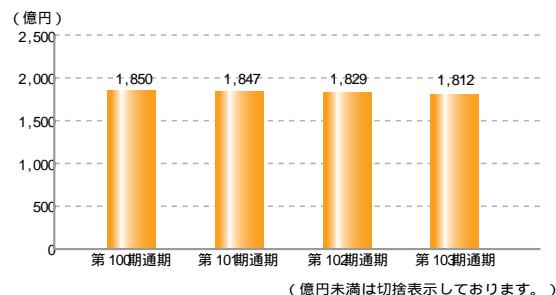
(単位:百万円)

科 目		期 別	当 期 (平成14年4月1日-平成14年3月31日)	前 期 (平成13年4月1日-平成13年3月31日)	
営業損益の部	営業収益				
	売上高		181,206	182,947	
	営業費用		176,398	180,307	
	売上原価		146,778	150,025	
	販売費及び一般管理費		29,620	30,281	
	営業利益		4,807	2,640	
	営業外損益の部	営業外収益		1,119	1,152
		受取利息及び配当金		175	178
		連結調整勘定の償却額		13	3
		持分法による投資利益		65	97
その他			864	873	
営業外費用			1,472	1,776	
支払利息			456	543	
退職給付費用			705	842	
その他			310	391	
経常利益			4,454	2,016	
特別損益の部	特別利益		90	199	
	固定資産売却益		82	199	
	投資有価証券売却益		8	-	
	特別損失		428	3,233	
	固定資産除却損		175	277	
	投資有価証券売却損		-	476	
	ゴルフ会員権売却損		27	-	
	子会社整理損		-	25	
	厚生年金基金代行部分返上損		-	66	
	特別退職金		136	-	
	固定資産評価損		39	-	
	投資有価証券評価損		48	2,162	
	出資金評価損		-	17	
	前期損益修正損		-	207	
税金等調整前当期純利益		4,116	1,017		
法人税、住民税及び事業税		1,136	400		
法人税等調整額		1,064	675		
少数株主利益		26	-		
少数株主損失		-	11		
当期純利益		1,888	731		

(百万円未満は切捨表示しております。)

業績の推移(連結)

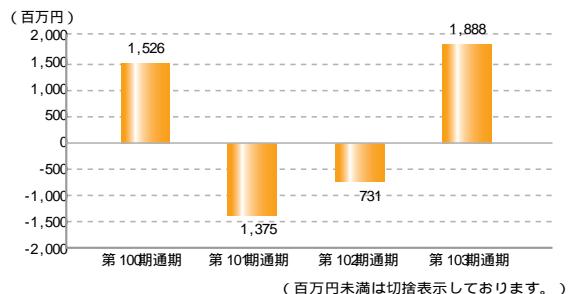
売上高



経常利益



当期純利益



貸借対照表(単体)

損益計算書(単体)

(単位:百万円)			(単位:百万円)		
科目	期別 当期 (平成16年3月3日)	前期 (平成15年3月3日)	科目	期別 当期 (平成16年3月3日)	前期 (平成15年3月3日)
【資産の部】	113,628	114,287	【負債の部】	68,185	73,844
流動資産	36,548	37,456	流動負債	44,329	48,993
現金・預金	3,586	3,256	支払手形	1,123	1,353
受取手形	751	993	買掛金	11,197	10,742
売掛金	16,428	16,292	短期借入金	21,620	20,620
たな卸資産	14,129	14,226	コマーシャルペーパー	2,500	9,200
繰延税金資産	369	1,472	未払費用	1,961	1,958
その他	1,400	1,332	預り金	2,461	2,337
貸倒引当金	117	117	賞与引当金	742	700
			その他	2,722	2,080
固定資産	77,080	76,831	固定負債	23,856	24,851
有形固定資産	60,778	64,071	長期借入金	14,792	16,892
建物・構築物	30,735	32,291	預り保証金敷金	1,324	1,303
機械装置	15,539	17,103	繰延税金負債	4,828	3,360
その他	711	765	退職給付引当金	2,365	2,619
土地	13,752	13,833	役員退職慰労引当金	545	674
建設仮勘定	39	77	【資本の部】	45,443	40,442
無形固定資産	365	357	資本金	12,778	12,778
投資その他の資産	15,935	12,402	資本剰余金	9,007	8,970
投資有価証券	11,483	7,721	資本準備金	3,270	3,270
長期貸付金	1,490	1,571	その他資本剰余金	5,736	5,700
子会社株式	2,950	2,947	(資本準備金減少差益)	(5,700)	(5,700)
固定化営業債権	322	321	(自己株式処分差益)	(36)	—
その他	1,047	1,197	利益剰余金	20,928	19,557
貸倒引当金	1,359	1,357	任意積立金	16,399	16,566
			当期末処分利益	4,529	2,990
			その他有価証券評価差額金	2,737	332
			自己株式	8	1,195
資産合計	113,628	114,287	負債及び資本合計	113,628	114,287

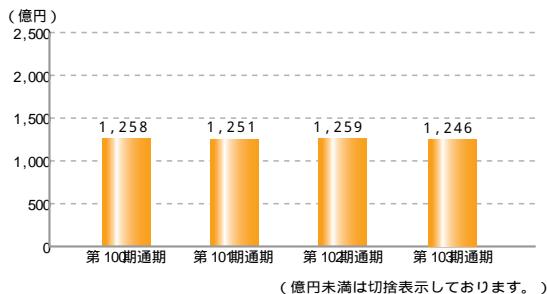
(百万円未満は切捨表示しております。)

(単位:百万円)		
科目	期別 当期 (平成16年3月3日-平成15年3月3日)	前期 (平成15年3月3日-平成14年3月3日)
営業収益の部		
営業収益		
売上高	124,637	125,953
営業費用	120,645	124,046
売上原価	98,863	101,668
販売費及び一般管理費	21,781	22,377
営業利益	3,992	1,907
営業外収益の部		
営業外収益	838	878
受取利息及び配当金	204	216
その他	634	662
営業外費用	1,163	1,493
支払利息	329	399
退職給付費用	648	785
その他	184	308
経常利益	3,668	1,292
特別損益の部		
特別利益	86	3
固定資産売却益	81	3
投資有価証券売却益	5	—
特別損失	239	2,891
固定資産除却損	135	189
投資有価証券売却損	—	474
ゴルフ会員権売却損	22	—
厚生年金基金代行部分返上損	—	66
固定資産評価損	39	—
投資有価証券評価損	41	2,149
その他	—	10
税引前当期純利益	3,515	1,595
法人税、住民税及び事業税	685	39
法人税等調整額	933	712
当期純利益	1,897	922
前期繰越利益	2,632	1,246
中間配当額	—	527
利益準備金取崩額	—	3,194
当期末処分利益	4,529	2,990

(百万円未満は切捨表示しております。)

業績の推移(単体)

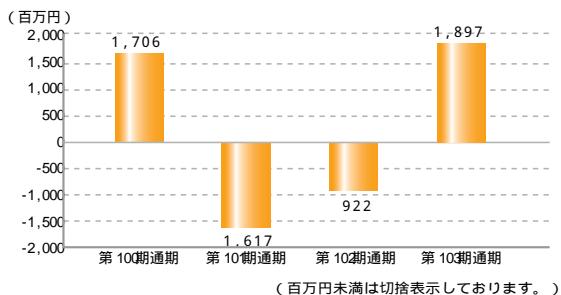
売上高



経常利益



当期純利益



利益処分

(単位:百万円)

科目	期別	
	当期 (平成19年4月1日-平成19年3月31日)	前期 (平成18年4月1日-平成18年3月31日)
当期末処分利益	4,529	2,990
固定資産圧縮積立金取崩額	318	342
計	4,847	3,333
これを次のとおり処分します		
株主配当金	1,083 (1株につき円)	525 (1株につき円)
役員賞与金 (うち監査役分)	25 (3)	—
固定資産圧縮積立金	—	175
計	1,108	701
次期繰越利益	3,738	2,632

(百万円未満は切捨表示しております。)

(注) 固定資産圧縮積立金は、租税特別措置法の規定に基づくものであります。

株式の概況

(平成18年3月31日現在)

会社が発行する株式の総数	720,000,000株
発行済株式の総数	180,649,898株
株主数	17,554名

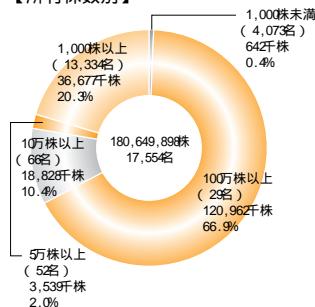
大株主(上位10名)

株主名	所有株数(千株)	議決権比率(%)
伊藤忠食糧販売株式会社	17,372	9.7
日商岩井株式会社	11,525	6.4
日本興亜損害保険株式会社	8,752	4.9
株式会社千葉銀行	7,875	4.4
三井物産株式会社	7,700	4.3
農林中央金庫	5,515	3.1
ユアサ・フナシヨク株式会社	5,049	2.8
株式会社カーギルジャパン	4,700	2.6
株式会社みずほ銀行	4,596	2.6
みずほ信託退職給付信託みずほコーポレート銀行口	4,500	2.5

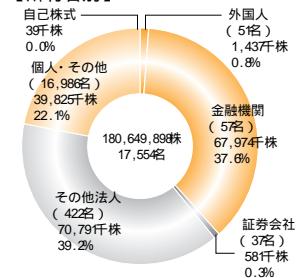
(注) 千株未満は切捨表示しております。

株式の分布

【所有株数別】



【所有者別】



役員

(平成 16年 6月 29日現在)

グループの概要

取締役および監査役

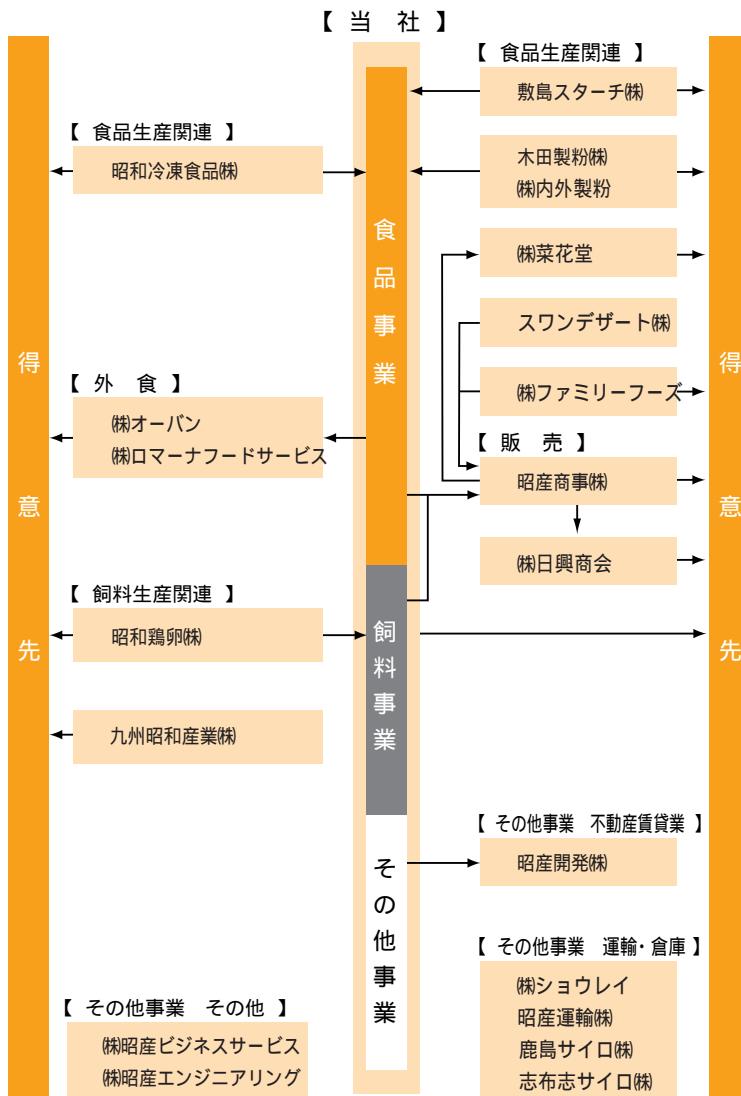
取締役会長
(代表取締役)
取締役社長
(代表取締役)
専務取締役
常務取締役
常務取締役
常務取締役
監査役(常勤)
監査役(常勤)
監査役
監査役

金原 陸夫
福井 茂雄
渡辺 俊雄
栗原 忠夫
櫻井 憲明
中川 基夫
異儀 田 勲
金吉 誠之
鈴木 孝雄
中台 好弘

執行役員

常務執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員

江口 寛忍
鈴木 直哉
阿部 正克
横沢 正人
渡辺 睦人
信岡 正治
御法川 修
伊藤 匡児
金沢 多計志
石居 義生
田中 富男
佐久間 潤
小川 敏郎



= 連結子会社 = 非連結子会社 = 持分法適用会社 ⇄ = 製品及び役務の流れを示しております。

会社の概要

1. 設立	昭和14年2月18日
2. 資本金	12,778,008,177円(平成16年3月31日現在)
3. 従業員数	1,193名(平成16年3月31日現在)
4. 事業所	
本社	〒101-8521 東京都千代田区内神田2-2-1(鎌倉河岸ビル) Tel.03(3257)2011
大阪支店	〒530-0043 大阪市北区天満3-2-15 Tel.06(6351)1103
名古屋支店	〒451-0042 名古屋市中区那古野1-36-6 Tel.052(571)6211
仙台支店	〒984-0015 仙台市若林区卸町1-6-2 Tel.022(284)3291
札幌支店	〒003-0807 札幌市白石区菊水7条2-7-1 Tel.011(825)0415
福岡支店	〒812-0054 福岡市東区馬出1-24-35 Tel.092(651)6861
広島支店	〒733-0833 広島市西区商工センター1-9-17 Tel.082(277)6611
太田支店	〒373-0847 太田市西新町93-8 Tel.0276(31)5711
水戸支店	〒311-4152 水戸市河和田3-2338-33 Tel.029(251)4111
千葉出張所	〒273-0015 船橋市日の出2-20-5 Tel.047(437)7347
南九州出張所	〒891-0131 鹿児島市谷山港3-4-2 Tel.0992(62)0681
鹿島工場	〒314-0194 茨城県鹿島郡神栖町東深芝6 Tel.0299(92)1212
神戸工場	〒658-0043 神戸市東灘区御影浜町5 Tel.078(841)4151
船橋工場	〒273-0015 船橋市日の出2-20-2 Tel.047(433)1234
総合研究所	〒273-0015 船橋市日の出2-20-2 Tel.047(433)1245
食品開発センター	〒272-0026 市川市東大和田2-4-10 Tel.047(379)2331

5. 主要営業品目

部門	主要な内容
製粉部門	小麦粉、ふすま、プレミックス類(ドーナツ、ケーキ、スナックなど)、冷凍食材(ドーナツ、パンなどの生地)、小麦粉周辺食材(加工油脂など)
油脂部門	植物性食用油(サラダ油、白絞油、ごま油、加工油脂、機能性油脂)、脱脂大豆、豆腐粉、大豆蛋白、菜種粕、レシチン、食品用大豆、業務用食材(天ぷら粉、から揚げ粉、マカロニ、スバゲッティなど)
ぶどう糖部門	異性化糖、水飴、粉末水飴、オリゴ糖、結晶ぶどう糖、液状ぶどう糖、ドーナツシュガー、医薬用ぶどう糖、コーンスターチ、粗酵素(アミラーゼ)
食品部門	天ぷら粉、から揚げ粉、お好み焼粉、ホットケーキミックス、家庭用小麦粉、乾麺類、マカロニ、スバゲッティ、パスタソース、ギフトセット、家庭用食用油(健康油、サラダ油、オリーブ油、調味油)、小麦胚芽油、家庭用炊飯油
飼料畜産部門	配合飼料、鶏卵および鶏卵加工品
倉庫部門	サイロおよび本船荷揚設備による穀物の本船吸揚荷役、発送、保管業務および倉庫の賃貸業務
事業開発部門	建物の賃貸業務など

株主メモ

決算期	3月31日
定時株主総会	6月
公告掲載新聞	日本経済新聞
株式の名義書換	(名義書換代理人) 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目4番3号 U F J 信託銀行株式会社 (同事務取扱所) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番1号 U F J 信託銀行株式会社 証券代行部 電話 東京(03)5683-5111 (同取次所) U F J 信託銀行株式会社各支店 野村證券株式会社 本店・支店
1単元の株式の数	1,000株

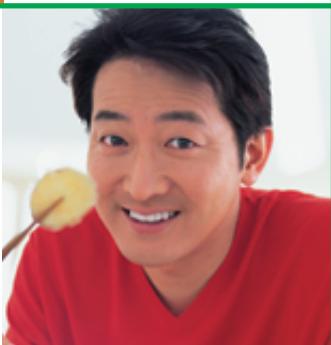
当社は決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ(<http://www.showa-sangyo.co.jp>)に掲載しております。

どうして
オレインリッチは
ここまで
油の「質」に
こだわるの!?



毎日の食卓を
もっと
おいしくするために。
オレインリッチは、
ひまわり油
100%の
プレミアムオイルです。

あなたと
あなたの
大切な人のために。
オレインリッチは、
酸化しにくい
オレイン酸を
80%含有。



油を「質」で選べば、
オレインリッチ。

お問い合わせ：昭和産業株式会社 お客様相談センター
Tel.03-3257-5201 <http://www.showa-sangyo.co.jp>

◎おいしい情報、お得な情報がいっぱい。ひまわりネット <http://www.himawarinet.com>

日本をおいしくする
SHOWA

昭和産業株式会社

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号(鎌倉河岸ビル)

TEL 03-3257-201(代) FAX 03-3257-2180